

舞鶴市立赤れんが博物館

所 有 者 舞鶴市
設 計 者 株式会社 乃村工藝社
舞鶴市土木建築部建築課
中村展設 株式会社
施 工 者 株式会社 藤本工務店
小倉電気工業 株式会社
株式会社 前川管工事工業所
株式会社 時岡組
晃栄興業 株式会社
中村展設 株式会社



舞鶴市には、旧海軍の煉瓦造建築物が多数残っている。本博物館は、これらの中で転活用された第1号である。

これらの保存については、1982（昭和57）年、日本建築学会より要望書が出され、1984年には、府・市の調査で、観光拠点にこれらの活用が提案されていたが、積極的な保存の動きが起こるのは1989年以降であった。1989年、市職員の自主研究グループが、市所有の赤煉瓦倉庫をライトアップ、翌年には「まいづる建築探偵団」が発足し市内の煉瓦建造物調査を開始、バイエリアin北海道（函館・小樽・札幌の赤煉瓦視察）に100人の市民が参加、11月には赤煉瓦シンポジウムinまいづる開催、1991（平成3）年には市民200人参加のまちづくり市民団体「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」発足と、市民による保存運動が活発となった。

同年、市も赤煉瓦倉庫の精密調査を実施、市制50周年記念実行委員会がその転活用を了承、本博物館は1992年着工、翌年オープンしたものである。

本建物は、日露戦争直前の1903（明治36）年旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫として建設された鉄骨煉瓦造2階建の倉庫で、鉄骨煉瓦造建築物としては我が国に現存する最古級のものである。

この建物を、世界でも珍しい「煉瓦」をテーマとした「赤れんが博物館」としたことから、来館者も多く、展示品も珍しい煉瓦が世界中から集まってきており、国際交流も活発となり、市はこれを、まだ多数残っている煉瓦造を活かしたまちづくりへの中核施設と位置づけている。

改修にあたり、構造強度に関しては、京都大学金多潔先生の指導を仰ぎ、綿密な調査と補修工事を行っている。内装も昔の小屋組、床組、鉄骨を活かし、意匠的にも成功しているといえよう。また、ライトアップが、煉瓦を生かしたまちづくりの象徴的な企画として実施されている。

市民、市職員、市当局が、この建築の価値を評価し、適切な再利用計画を立てられたこと、設計者と施工者の努力により、その意図が高いレベルで実現されていることが、BELCA賞の受賞にふさわしいものであると認められた。

なお、屋根は、当初天然スレート葺きだったものを、耐候性を考慮してカラーステンレスとしているが、原設計の雰囲気にもう少し配慮が欲しかったとの意見があった。

この受賞は、まだ多数残っている舞鶴の煉瓦造建築物のまちづくりへの活用について、それを進めてきた市民や行政の方々にとっての大きい支えになるものと考えている。